

4 . 日常生活動作能力 (ADL) と生活の質 (QOL) 調査について ~NIPPON DATA90 および NIPPON DATA2010

ND80/90/2010 ADL 追跡委員会 は委員長 は委員

研究分担者 早川 岳人 (立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター 教授)

研究分担者 岡山 明 (生活習慣病予防研究センター 代表)

研究分担者 尾島 俊之 (浜松医科大学医学部健康社会医学講座 教授)

研究協力者 藤内 修二 (大分県福祉保健部健康対策課 健康対策課長)

研究協力者 宮川 尚子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生部門 客員助教)

事務局

研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)

研究協力者 近藤 慶子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生部門 特任助教)

研究協力者 佐藤 敦 (福岡大学医学部衛生・公衆衛生学教室 助教)

研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)

研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)

研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)

研究の目的

わが国における循環器疾患等生活習慣病予防対策を立案するにあたって、高齢者の日常生活動作 (ADL) の低下要因を明らかにしていく必要がある。これまで NIPPON DATA80 (ND80) ならびに NIPPON DATA90 (ND90) については、調査時、65 歳以上の高齢者に対して日常生活動作に関する調査を全国の保健所のご協力のもと実施してきた。ND80 は、予後調査もふくめすでに追跡調査を完了している。ND90 は、全国約 300 地区から無作為に抽出された循環器疾患基礎調査対象者の追跡調査であり、9 割以上の高い追跡率でそれぞれの死因と調査時の健診所見、生活習慣との関連を明らかにしており多くの研究成果がある。

そこで、本報告書においては、5 年間の総括として、

- 1 . ND90 の対象者について、ベースライン時から 22 年後の 2012 年に実施した高齢者の日常生活動作能力 (ADL) 、生活の質 (QOL) 調査について報告
- 2 . ND2010 の対象者について、5 年目の ADL 追跡調査年にあたり、調査時 70 歳以上の方を対象に、基本的日常生活動作能力の状況、手段的日常生活動作能力について報告

をまとめた。

表 ND90 ND2010 日常生活動作追跡結果 調査時70歳以上									
	NIPPON DATA90				NIPPON DATA2010				
	男性		女性		男性		女性		
	N	%	N	%	N	%	N	%	
	463		755		454		557		
「あなたは食事、排せつ、着替え、入浴、歩行の際、他人の手助けを必要としますか」 「はい」									
食事	44	8.6	87	10.3	7	1.5	8	1.4	
排せつ	38	7.4	91	10.4	12	2.6	10	1.8	
着替え	48	9.4	111	13.1	13	2.9	12	2.2	
入浴	60	11.8	162	19.2	18	4.0	17	3.1	
屋内歩行 (ND2010は歩行)	31	6.1	80	9.4	15	3.3	18	3.2	
屋外歩行	43	8.4	116	13.7					
手段的日常生活動作能力(都老研13項目) いいえ									
バスや電車を使って一人で外出できますか	106	20.8	317	37.5	33	7.3	60	10.8	
日用品の買い物ができますか	86	16.9	241	28.5	23	5.1	40	7.2	
食事の用意ができますか	123	24.2	205	24.2	50	11.0	39	7.0	
請求書の支払いができますか	72	14.1	198	23.4	22	4.8	38	6.8	
銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか	104	20.4	248	29.3	33	7.3	39	7.0	
年金などの書類が書けますか	91	17.9	257	30.4	31	6.8	51	9.2	
新聞を読んでいますか	57	11.2	200	23.6	22	4.8	57	10.2	
本や雑誌を読んでいますか	144	28.3	288	34.0	49	10.8	84	15.1	
健康について記事や番組に関心がありますか	81	15.9	140	16.5	44	9.7	42	7.5	
友達の家を訪ねることがありますか	172	33.8	317	37.5	98	21.6	86	15.4	
家族や友達の相談にのることがありますか	120	23.6	238	28.1	63	13.9	76	13.6	
病人を見舞うことができますか	94	18.5	234	27.7	35	7.7	46	8.3	
若い人に自分から話しかけることがありますか	125	24.6	166	19.6	57	12.6	55	9.9	

方法

1. NIPPON DATA90

調査は全国の保健所を通じて実施した。郵送調査を原則とし、場合によっては保健所の判断で電話調査、訪問調査で実施してもらった。高齢者対象の調査であるため調査票はA3版二つ折りの4ページにし、挿絵等を活用して対象者が記入しやすいように努めた。調査項目は基本的ADL(食事、排泄、着替え、入浴、屋内移動、屋外歩行)老研式活動能力指標13項目、満足感、幸福感、生きがい、脳卒中既往有無、心筋梗塞既往有無、大腿部頸部骨折既往有無、その他の下肢骨折既往有無とした。

本調査を実施するにあたり、2012年2月に開催された全国保健所長会理事会において本研究の主旨と調査内容について協力依頼を行い、その了承を得た。全国保健所長会から各保健所へ協力依頼文書を出していただいた。加えて、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課からも調査協力依頼についての文書を都道府県、保健所設置市、特別区の地域保健担当課宛に文書を出していただいた。調査を実施した結果、1,418名(90.2%)の調査票を回収できた。

2. NIPPON DATA2010

調査対象者：NIPPON DATA2010の5年目の追跡調査において、調査時70歳以上(ベースライン時65歳以上)の生存者対象

調査項目は、大腿骨頸部骨折既往、現在の施設入所所有無、現在の入院の有無、介護保

険制度利用状況、基本的日常生活動作能力(食事、排泄、着替え、入浴、歩行)の状況、手段的日常生活動作能力(都老研13項目)の状況とし、調査期間は、2015年10月から12月にかけて行った。調査方法は郵送調査 上記の調査項目を毎年の発症追跡調査票に組み込んだ。調査を実施した結果、1011名(98.1%)を回収できた。

結果

国によると、介護を受けている期間は男女とも平均約10年という報告がある。今回の調査は、NIPPON DATA90(ND90)は、ベースラインより22年後の追跡であり、NIPPON DATA2010(ND2010)は5年後の追跡結果であるので、ND90は5年以上の年単位でADLが低下し続けている対象者も含まれており、そのために手助けが必要な割合がND90で高かったと考えられる。

ND2010は、現時点での5年間のADL低下の発生割合とも考えられるので、今後の高齢者対策の基礎資料となる。「友達の家を訪ねることがありますか」、「家族や友達の相談にのることがありますか」等の、いわゆる社会的ADLからの低下が大きいことが分かった。

これらの調査は、生存者に対して調査を行っており、死亡者の数を考慮していない点と、ND2010においては、高齢、すなわちADLやIADLの低下を理由とした追跡調査の終了希望が散見されるので、今後、分析結果の解釈にはこの点に留意が必要と思われる。